



日本赤十字九州国際看護大学

大学院案内 2026

Japanese Red Cross
Kyushu International College of Nursing
Graduate School of Nursing

ひとりを看る目 その目を世界へ

看護学研究科 | 看護学専攻 修士課程 | 共同看護学専攻 博士課程

看護界の新しいリーダーに!

日本赤十字九州国際看護大学は、2007年4月に大学院看護学研究科修士課程を開設し、2016年からは、赤十字5大学共同の博士課程を開設しました。以来、日本の看護をリードする、卓越した教育・研究・実践者を輩出しています。

VUCA(変動性: Volatility、不確実性: Uncertainty、複雑性: Complexity、曖昧性: Ambiguity)の時代を迎え、各界のリーダーとなる人は、これまでのやり方にとらわれることなく、独自に考え、独自に企画する能力が求められています。本学大学院では領域やキャンパスを超えた多彩な学びを推進し、これからの時代に求められる創造性に溢れた人材の育成を目指しています。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、わたしたちの生活を激変させましたが、今後もどんな未知の病原体によるパンデミックが起きるかわかりません。世界各地で起こっている軍事紛争も、いつ日本にその火の粉が降りかかってくるかわかりません。予期せぬ災害も頻繁に起きています。

わたしたちはそれらの危機に即座に対応し、生命や生活を守る創意工夫をしなくてはなりません。看護職はそのような事態においてはフロントラインに立って活動する立場です。そして、その活動をリードする、あるいはそのときに活用できる知を開発するのが大学院修了者です。

本学では赤十字の「人道」という理念のもと、看護とは何か、看護とはどうあるべきかを探求したうえで、人類の福祉に貢献できる高度な実践能力や研究能力を修得できるようなカリキュラムを設け、臨床実践・国際活動・教育経験・研究実績の豊富な教員が皆さんの学修を支援します。本学の様々な資源を活用して自己研鑽し、看護の本質を見失うことなく、変わりゆく時代を先取りするリーダーとなっていただくことを期待しています。

日本赤十字九州国際看護大学

学長

池松 裕子



多様な専門性と豊富な経験を持つ教授陣が キャリア形成の一步を全力で支援します。

本学は、世界文化遺産の宗像大社がある宗像市に位置しています。2007年に大学院修士課程を開設し、2009年には助産教育コースを、2017年には高度実践看護師課程(専門看護師コース)を新設しました。博士課程は、2016年に5つの赤十字看護大学が共同教育課程として開設し、博士課程を有する稀少な単科大学となりました。

修士課程は、多様なバックグラウンドをもつ大学院生が、教育・研究者コース、CNS(専門看護師)コース、助産コースに在籍し、個々のキャリアデザインや夢の実現に向けて切磋琢磨しています。理論との統合により看護実践の知を確かなものとし、看護学や看護実践の場に貢献できる研究成果の創出を目指しています。このプロセスでは、専門分野の指導はもちろんのこと、研究の深化を促進するための総合研究指導体制をとっています。また、職業と学業の両立を可能にするために人的・物的環境調整を行い、大学院生個々の状況に応じた指導・支援に努めています。

博士課程は、実践知を基盤として、看護学や社会の発展に寄与する高度な研究能力の獲得や学問の探究を志す大学院生が集っています。5つの赤十字看護大学の共同教育課程であり、多様な専門性や豊富な研究指導経験を有する教授陣から指導を受けられることも魅力的です。講義、演習、研究指導は、概ねZoomで行っていますので、ネット環境さえあればどこにいても受講することができます。

人口の高齢化のみならず、科学の発展やAIの開発、ICTなどの技術革新は目覚ましく、社会は複雑かつ多様化しています。また、健康問題の複雑化や療養の場の変化により保健・医療・福祉にも大きな変革が求められています。その一方で、不易流行の側面も重要です。

今こそ、柔軟に創造的に対応できるケアシステムの検討や看護の本質・強みの再発見、実践知に貢献できる学問の探究および研究に挑戦してみませんか?皆さんの大きな一步を全力で支援いたします。

日本赤十字九州国際看護大学

大学院 研究科長
姫野 稔子



CONTENTS

P01 学長・研究科長メッセージ
P03 沿革
P04 修士課程/特色・履修の流れ
P05 大学院の理念・目的
P07 コース紹介

P10 研究指導体制
P10 研究論文発表会
P11 授業科目一覧
P12 修士論文タイトル
P13 共同看護学専攻/博士課程

P15 サポート体制
P16 教育課程等の概要
P17 修了生コメント
P17 在学生コメント
P18 入試相談会

P19 施設紹介
P21 入試情報

日本赤十字九州国際看護大学 沿革

日本赤十字九州国際看護大学は、学校法人日本赤十字学園の第4番目の看護学部看護学科として九州地区に開設されました。2007年4月に大学院を開設、2010年4月には大学院での助産教育を開始しました。更に、2016年4月には5つの赤十字看護大学との共同で、共同看護学専攻博士課程を開設しました。

- 2001年 4月**
日本赤十字九州国際看護大学 開学
- 2006年 6月**
大学院設置認可申請書を文部科学大臣に提出
- 2006年 11月**
文部科学大臣から大学院設置の認可を受ける
- 2007年 4月**
日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科 開設
- 2009年 3月**
公益財団法人大学基準協会における大学評価の結果、大学基準に適合していると認定される
認定期間は2009年4月1日から2016年3月31日まで
- 2009年 6月**
大学院看護学研究科看護学専攻「助産師学校」指定申請書を文部科学大臣に提出、受理される
- 2009年 10月**
文部科学大臣から大学院看護学研究科看護学専攻（助産コース）開設の認可を受ける
- 2010年 4月**
大学院看護学研究科看護学専攻（助産コース） 開設
- 2015年 3月**
大学院共同看護学専攻博士課程設置認可申請書を文部科学大臣に提出
- 2015年 8月**
文部科学大臣から大学院共同看護学専攻博士課程設置の認可を受ける
- 2016年 3月**
公益財団法人大学基準協会における大学評価の結果、大学基準に適合していると認定される
認定期間は2016年4月1日から2023年3月31日まで
- 2016年 4月**
大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程 開設
- 2017年 4月**
大学院看護学研究科看護学専攻（CNSコース：在宅看護学・クリティカルケア看護学）開設
- 2018年 4月**
大学院講義室・研究室 新設
- 2022年 4月**
大学院看護学研究科看護学専攻（CNSコース：精神看護学・老年看護学）開設
- 2023年 3月**
公益財団法人大学基準協会における大学評価の結果、大学基準に適合していると認定される
認定期間は2023年4月1日から2030年3月31日まで

看護学専攻 修士課程

Graduate School of Nursing

学位取得のための3つのコース、9つの専攻領域

学位 修士（看護学）

▶ 教育・研究者コース

領域 国際保健・国際看護学

[分野] ・国際看護学・災害看護学
・ヘルスプロモーション

領域 生涯発達看護学

[分野] ・成育看護学（小児・母性） ・成人看護学（慢性）
・老年看護学

領域 広域看護学

[分野] ・精神看護学 ・在宅看護学
・クリティカルケア看護学

領域 基盤看護学

[分野] ・看護管理学 ・看護教育学
・看護倫理学

▶ CNSコース

領域 精神看護学

領域 老年看護学

領域 在宅看護学

領域 クリティカルケア看護学

▶ 助産コース

領域 助産学

研究科修士課程の特色

1 研究方法を強化した共通科目

本学の共通科目の特色として、研究方法(研究方法総論)、研究方法A-I(量的研究方法の基礎)、研究方法B-I(質的研究方法の基礎)、研究方法A-II(量的研究方法)、研究方法B-II(質的研究方法)といった多くの研究方法が学べます。質的研究と量的研究に対するきめ細やかな指導を行い、大学院生の研究能力向上を支援します。

2 社会人への配慮

授業は金曜日と土曜日に集中しているため(助産コース、CNSコース除く)、1年間で大半の科目履修ができます。2年目以降は、修士論文・課題研究を作成するための多くの時間を確保することができます。なお、大学院入学前に、本学大学院で科目等履修生として修得した単位は、大学院入学後に概ね修得単位として15単位まで認められます。このように、社会人が働きながら修士号を取得できるようにきめ細やかな対応をしています。

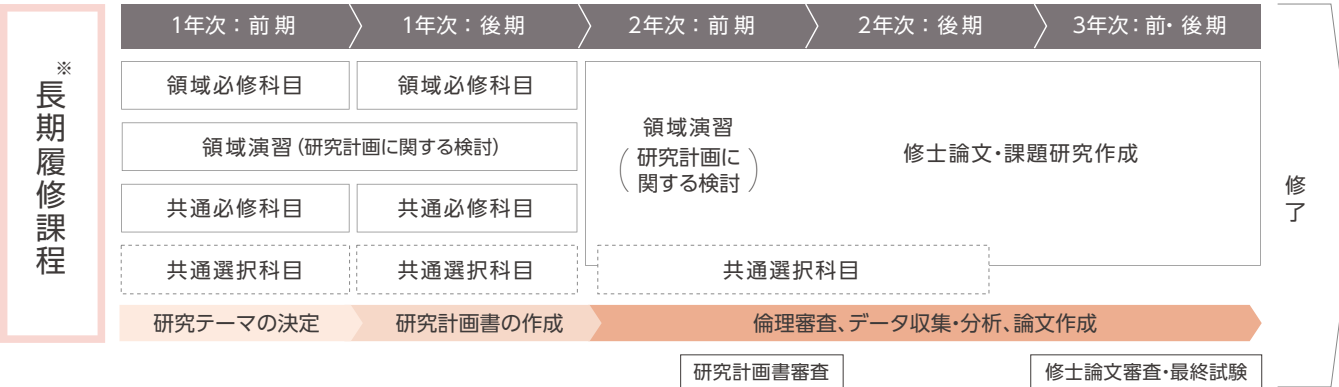
3 充実した研究環境

共同研究室には、研究活動に専念できるように、デスク、パソコン(SPSS搭載)が準備されています。また、全館Wi-Fi対応で、いつでもどこでもインターネットや文献検索に必要な医療系データベースに接続できます。一部のデータベースは、学外からのアクセスも可能です。なお、講義室Aには、電子黒板等の機材を配備し、研究発表の練習やディスカッションなど新たな協同学習の環境も整っています。

4 領域の垣根を越えた指導体制

一つの領域は複数の分野で構成されています。たとえば、成育看護学(小児・母性)、成人看護学(慢性)、老年看護学は独立した専門分野ですが、この3分野は生涯発達看護学という領域に位置付けられています。専門性が違う分野であっても、生涯発達という時間的経過でとらえなおすと対象の健康問題を包括的にとらえることができます。さらに、領域の垣根を越えた多角的な視点からの意見交換ができ、大学院生の自律的・学際的な研究活動の支援に繋がっています。

入学から修了までの履修の流れ



※3年間で履修する課程です。職業を持っている人などは、ゆとりをもって着実に履修できます。1年次、もしくは2年次に研究計画書の審査を経て、3年次に修士論文の審査と最終試験に合格後、修士の学位が授与されます。長期履修制度は、入学後に申請が必要です。履修年限の短縮申請は、在学中1回のみ認められます。長期履修制度を利用した場合においても、総納付金額は標準課程と同額です。

1 大学院の理念・目的

本大学院は、建学の精神である赤十字の理想とする人道的任務の達成を図るため、看護に関する学術の中心として、広く看護の実践と教育・研究に関する理論と専門技術を教授研究し、深い学識及び卓越した感性と人間性を備えた高度な看護専門職の育成を図り、看護学の発展とともに世界の人々の健康と福祉の向上と豊かな生活の創造に寄与することを目的とする。

2 大学院の目的

- 1) 修士課程は、広い視野に立って深い学識を教授し、人間性を涵養するとともに、看護学における研究能力又は高度な専門性を必要とする看護職者としての高い能力を培うことを目的とする。
- 2) 後期3年博士課程は、看護学研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる幅広く豊かな学識を養うことを目的とする。

3 大学院の教育目標

赤十字の人道の理念を基調に、多様な健康ニーズを学際的に研究し、国内外の保健・医療・福祉に関連した社会的ニーズに対応する理論と技術を創出・実践する看護分野の専門家を育成することを教育目標とする。

入学者受け入れの方針

アドミッション・ポリシー

本学修士課程は、赤十字の人道の理念を基調に、多様な健康ニーズを学際的に研究し、国内外の保健・医療・福祉に関連した社会的ニーズに対応する理論と技術を創出・実践する看護分野の専門家を育成することを教育目標としています。このような教育目標の下、本学修士課程のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに示す教育を行っています。こうした教育を受けるための条件として、次に掲げる倫理観、基本的能力、態度を有する大学院生を求めます。

- ・ 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観を有する人
- ・ 基礎学力、専攻領域の基本的知識・思考力を身につけている人
- ・ 看護・保健専門職として研究する基礎的能力を有する人
- ・ 主体的に国内外の健康問題について学び、多職種と協働して社会に貢献する態度を有する人

教育課程の編成・実施方針

カリキュラム・ポリシー

本学修士課程は、その掲げる教育理念および教育目的・目標を達成するために研究・教育者を旨とする「教育・研究者コース」と、高度実践看護師を目指す「CNSコース」、助産師国家試験受験資格取得を目指す「助産コース」を設置し、看護学の研究者、教育者、実践者の養成を目指しています。修士課程の教育目標を達成するために、ディプロマ・ポリシーに掲げた資質・能力の修得を目指し、コース別に、共通科目と専門科目を体系的に編成し、以下の方針（教育課程編成、学修方法・学修過程、学修成果の評価）に基づいた教育課程を展開します。

カリキュラムの体系をわかりやすく示すために、学位取得までのプロセス、カリキュラムマップ、コースツリー、履修モデル、履修の流れを明示します。

教育課程編成

【修士（看護学）】教育・研究者コース、CNSコース、助産コース

- 1) 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観をそなえた看護専門職として課題を探究するために、学修の基盤となる共通科目を置いています。
- 2) 多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉え、各領域における専門性の発展・深化を目指すために専門科目を置いています。
- 3) 看護学の発展に貢献する研究に取り組むために、様々な研究方法を段階的・構造的に学べる研究科目を置いています。
- 4) 看護専門職として研究の成果を社会に還元するために特別研究または課題研究（CNSコースおよび助産コース）を設定しています。

「CNSコース」は、上記1～4に加えて、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

- 5) 卓越した看護実践能力を育成するために、それぞれの専門看護師資格認定に必要な科目を置いています。
- 6) 専門看護分野のケアの質改善に向けた課題を探究するために、文献クリティック演習および課題研究を設定しています。

「助産コース」は、上記1～4に加えて、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

- 5) 妊娠・分娩・産褥・新生児期が安全に経過するための実践能力を育成するために、助産師国家試験受験資格取得に必要な科目を置いています。
- 6) 助産管理の視点を持ち、地域の社会資源の活用や多職種と連携するための能力を育成する科目を置いています。
- 7) 人の一生における性と生殖をめぐる健康課題を分析し、健康・権利を守る援助を探究するために文献クリティック演習および課題研究を設定しています。

学修方法・学修過程

- 1) コースワーク（科目の履修）とリサーチワーク（修士論文の作成）を計画的に進めていくことができるように、教育課程を編成し、実施します。
入学時および学期初めに、研究指導教員は大学院生自身が履修計画を立案し、計画的に学修を進めていくことができるように履修指導を行い、学修を継続的に支援します。
- 2) ディプロマ・ポリシーに掲げた多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉え、保健・看護専門職として課題を探究するための能力を育成するために、学修の基盤となる科目（共通必修科目および共通選択科目）と、専門性の発展・進化を目指す科目（専門科目）を順序性や関連性を考慮して配置することによって、大学院生の目的に合わせて、多様な観点から学問を探究していくことができるようにしています。
- 3) 看護学の発展に貢献する研究に取り組む能力を育成するために、複数の研究科目を置き、科目間で連携を図りながら、基本から応用へと段階的、体系的に研究方法を学べるように授業を運営します。
- 4) 修士論文の作成に向けては、研究指導教員・研究指導補助教員による一貫した継続的な指導を行います。また、修士論文研究計画発表会と修士論文発表会を設定することで、専門領域の垣根を超えた多角的な視点からの意見交換ができ、大学院生の自律的・学際的な研究活動の支援に繋がります。

学修成果の評価

- 1) 学修成果の評価は、科目の成績、修得単位数、修士論文、最終試験、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力評価によって行います。
- 2) 科目の成績は、シラバスに示す評価方法・割合に基づき、科目担当者がS～Dの5段階で評価します。
- 3) 修士論文の評価は、学生便覧に示す審査体制・審査基準・審査方法に基づき審査を行い、可否を判定します。
- 4) 最終試験は、学生便覧に示す評価基準・評価方法に基づき実施し、A～Dの4段階で評価します。
- 5) ディプロマ・ポリシーに掲げた能力評価については「修了時の能力を評価する指標」を用いて、修了時に自己評価および研究指導教員による他者評価を行い、4段階で達成度を評価します。また、中間期にも同指標を用いて自己評価および他者評価を実施し、結果をフィードバックすることで、ディプロマ・ポリシーの達成に向けた学修支援に繋がります。

修了認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー

本学修士課程に所定の期間在学し、研究科の修了要件となる単位数を修得するとともに、学位論文の審査および最終試験に合格し、以下の要件を満たす者に修士の学位を授与します。

【修士（看護学）】

- 1) 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観をそなえた看護専門職として課題を探究する能力を有している。
- 2) 多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉える能力を有している。
- 3) 看護学の発展に貢献する研究に取り組む能力を有している。
- 4) 看護専門職として研究の成果を社会に還元する能力を有している。
- 5) 保健医療福祉に関連した社会的ニーズに的確に対応するために、多職種と協働し、看護専門職としての役割を発揮する能力を有している。

「CNSコース」は、上記1～5に加えて、以下の要件を求めます。

- 6) 専門看護分野において、卓越した看護実践能力を有している。
- 7) 専門看護分野において、ケアの質を評価し、ケアの質改善に向けた取り組みができる能力を有している。

「助産コース」は、上記1～5に加えて、以下の要件を求めます。

- 6) 人の一生における性と生殖をめぐる健康・権利を守る援助ができる能力を有している。
- 7) 妊娠・分娩・産褥・新生児期が安全に経過するように、根拠に基づいて助産ケアを実践できる能力を有している。
- 8) 助産管理の視点を持ち、地域の社会資源の活用や多職種との連携ができる能力を有している。



教育・研究者 コース

国際保健・国際看護学領域



健康は国際社会の共通の課題です。国内外での大規模な災害の多発、貧困、健康格差、高齢化の全世界的進行など、健康を脅かす要因は複雑・多様化しています。地域で暮らす人々が安全・安心かつ健康な生活を営むためには学問分野を統合した教育・研究が必要です。本領域では、災害・国際協力とヘルスプロモーションの分野が協働し、国際保健・国際看護領域の課題を多角的・構造的に探究し、個人・集団の健康と生活支援の実践計画策定の指導を行います。もって、国内外を問わず個人・集団の健康と安全に貢献できる、高い専門性と実践力を備えた人材の育成をめざします。

分野	分野の特徴	担当教員
国際看護学・災害看護学	災害、貧困、健康格差などの問題は国内外を問わず頻発しており、人々の健康や生活に影響を及ぼしています。本分野では、このような問題を様々な観点から深く洞察し、看護の役割について探究します。	小川 里美 教授 森山 ますみ 准教授
ヘルスプロモーション	高齢化の世界的な進行は、個人の健康増進を集団的にサポートするヘルスプロモーションを必要としています。コミュニティを地域社会、職場など広くとらえ、一人ひとりのライフスタイルを考慮した健康生活支援について探究します。	松尾 和枝 教授(特任) 緒方 文子 准教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

小川 里美 教授 s-ogawa@jrckicn.ac.jp

- 国際協力における人材育成に関する研究
- 紛争被災国における看護教育、看護政策に関する研究
- 災害看護に関する研究

松尾 和枝 教授(特任) k-matsuo@jrckicn.ac.jp

- 保健師の公衆衛生看護技術に関する研究
- ヘルスプロモーションのための人材育成に関する研究
- 生活習慣病のセルフケアに関する研究

森山 ますみ 准教授 m-moriyama@jrckicn.ac.jp

- 開発途上国における看護職の人材育成に関する研究
- 日本の国内に住む外国にルーツを持つ子ども・子育ての支援に関する研究
- 日本の看護職者の文化能力に関する研究

緒方 文子 准教授 a-ogata@jrckicn.ac.jp

- 連続夜勤者の疲労・ストレス・眠気に関する研究
- 労働者のメタボリックシンドローム発症に関する研究
- アスベスト曝露者の不安に関する研究

教育・研究者 コース

生涯発達看護学領域



国際化を含む生活様式の多様化は人の一生に新たな課題を生じさせており、そうした課題に取り組む人材の育成が必要です。本領域は、成育看護(小児・母性)、成人看護(慢性)、老年看護の3つの分野で構成され、発達段階における特徴的な健康問題を専門的に探究するとともに、グローバルな保健分野の問題をも探究できる人材の育成をめざします。

分野	分野の特徴	担当教員
成育看護学 (小児・母性)	子どもの成長・発達段階を踏まえて、子どもと親、家族、地域との関係をネットワークという視点を通して学びます。小児医療を取り巻く環境の変化および多職種連携についても最新の知見について探究します。助産師国家資格を取得後にも、性と生殖に関する発達課題を学び、その健康・権利を守る援助と親役割獲得のための支援について探究します。	永松 美雪 教授 川崎 幹子 准教授
成人看護学 (慢性)	現代の健康問題の多くは慢性疾患との関連が深く、医療の進歩や高齢化によって問題は複雑化しています。予防からエンド・オブ・ライフケアまでの長期的視点および国内外の最新の知見に基づき、慢性期にある人の健康問題の本質と解決策を探究します。	西山 陽子 准教授 山本 孝治 准教授
老年看護学	国内外の諸理論を通して老年看護の場で生じる現象への理解を深め、生活モデルを通して老年看護の本質や可能性、目指すべき看護を探究します。また、高齢者やその家族が健康的で質の高い生活を送るための看護援助について探究します。	姫野 稔子 教授 原田 紀美枝 准教授 町島 希美絵 准教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

永松 美雪 教授 m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp

- 親子関係、育児支援、虐待予防に関する研究
- 男女間暴力・性暴力予防に関する研究
- 望まない妊娠・性感染症予防に関する研究

姫野 稔子 教授 t-himeno@jrckicn.ac.jp

- 高齢者ケアに関する研究(看護介入プログラムおよび教育プログラムの開発、介入効果の評価・測定など)
- End-of-Life Care、ターミナルケア、終末期ケア、アドバンス・ケア・プランニングに関する研究
- 倫理的意思決定、家族の代理意思決定、高齢者の尊厳に関する研究など高齢者を取り巻く倫理に関する研究

西山 陽子 准教授 y-nishiyama@jrckicn.ac.jp

- 血糖と運動に関する研究
- 勤労者の生活習慣病予防に関する研究
- がん患者へのソーシャルサポート、及び緩和ケアに関する研究

山本 孝治 准教授 k-yamamoto@jrckicn.ac.jp

- 慢性病とともに生きる人への看護に関する研究
- セルフケアを高める支援に関する研究
- 炎症性腸疾患患者の看護に関する研究

町島 希美絵 准教授 k-machishima@jrckicn.ac.jp

- 高齢者の認知機能の維持に関する研究
- 認知症高齢者の活動意欲の向上に関する研究
- 摂食嚥下機能障害のアセスメントに関する研究

教育・研究者 コース

広域看護学領域

誰でもが遭遇しうる多様な健康の課題を、精神看護、在宅看護、クリティカルケア看護といった異なった分野から探究し、今後の課題に対して、専門的かつグローバルに関与できる人材の育成をめざします。

本領域は、精神看護学、在宅看護学、クリティカルケア看護学の3つの分野から構成されます。



分野	分野の特徴	担当教員
精神看護学	施設内外を問わず、健康問題を抱える対象者やケアを提供する看護師のメンタルヘルスに関する課題解決を探究します。グローバル化時代に対応するための新たな看護支援を探究します。	高橋 清美 教授 牧 マリコ 准教授
在宅看護学	在宅ケアを取り巻く社会的な背景や政策的な方針を踏まえた上で、在宅ケアにおける課題について探究します。また、活用できる概念や諸理論、研究動向から在宅看護の専門性について探究します。	西村 和美 准教授
クリティカルケア看護学	クリティカルな状況にある患者やその家族に対する看護について、国内外の知見の系統的な分析と、関連する諸理論や概念を用い、クリティカルケアの専門性について探究します。	池松 裕子 学長 立野 淳子 准教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

高橋 清美 教授 k-takahashi@jrckicn.ac.jp

- ・精神障がい者の食支援に関する研究
- ・気分障害への支援に関する研究
- ・地域で暮らす精神障がい者への支援に関する研究

西村 和美 准教授 k-nishimura@jrckicn.ac.jp

- ・高齢者の排泄ケア(予防を含む)に関する研究
- ・在宅難病療養者および家族への在宅療養支援に関する研究
- ・外来看護における在宅療養支援に関する研究

立野 淳子 准教授 j-tatsuno@jrckicn.ac.jp

- ・クリティカルケア領域における家族看護に関する研究
- ・重症患者のPICSに関する研究
- ・周術期における患者・家族ケアに関する研究

教育・研究者 コース

基盤看護学領域

現在、グローバル化した世界では、ものや情報は激しく交流し、人のライフスタイルも激変しています。また、医療技術も著しく進歩していますが「人を見る」という看護の本質は不変です。本領域では、このような社会の変化を視野に入れて、時代に応じた質の高い看護を個人・組織・専門職集団レベルで提供していくために必須となる組織マネジメントや看護政策、人材育成の方法論、看護倫理について、多角的、専門的に探究します。本領域は、看護管理学、看護教育学、看護倫理学の3つの分野から構成され、看護実践の基盤構築に貢献できる看護実践者・看護教育者・看護管理者の育成をめざします。



分野	分野の特徴	担当教員
看護管理学	看護管理の中核的役割を担う人材を育成するために、医療・看護提供システムや看護政策、組織マネジメントに関する諸理論、方法論を探究します。また、マネジメント上の課題を多角的に分析することで、課題解決に向けた方策を探究します。	—————
看護教育学	看護基礎教育・看護継続教育を担う人材を育成するために、看護専門職実践の特徴を踏まえた人材開発の諸理論・方法論を探究します。また、これらの知見をもとに教育・学習活動の実践例を考察し、課題解決に向けた方策を探究します。	本田 多美枝 教授 阿部 オリエ 准教授 小手川 良江 准教授
看護倫理学	さまざまな看護の場で、個々人の立場・背景による価値の違いによって倫理的問題(ジレンマ、課題等)が生じています。自らの感受性を高めながら、諸理論や分析方法を通して問題の本質と解決策を探究していきます。	—————

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

本田 多美枝 教授 t-honda@jrckicn.ac.jp

- ・看護職の人材開発に関する研究(看護学生、新人からベテランまでの各期の特性に応じた生涯学習支援、教育方法の開発など)
- ・リフレクション、ナラティブアプローチなどを活用した看護職の実践力開発・熟達化に関する研究
- ・看護・看護教育の現象解明・概念化に向けた研究

阿部 オリエ 准教授 o-abe@jrckicn.ac.jp

- ・臨床の場における看護職や学生への教育実践に関する研究
- ・看護継続教育における人材育成に関する研究
- ・看護実践・看護教育の現象解明に向けた研究

本大学院は、「精神看護学」・「老年看護学」・「在宅看護学」・「クリティカルケア看護学」の専門看護分野について、日本看護系大学協議会から高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程 38単位）として認定されています。本コースでは、保健・医療・福祉現場において、複雑な健康問題を有する患者にケアとキューを統合し、卓越した直接的ケアを提供するとともに、相談、調整、倫理調整、教育、研究を行い、ケアシステム全体を改善することで、看護実践を向上させる高度実践看護師の育成をめざします。

領域

精神看護学

領域の特徴

本領域は、精神看護専門看護師の育成をめざします。精神看護専門看護師は、対象のQOLの向上を目的として、個人、家族、および集団に対して、ケアとキューの統合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、疾病の予防および治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供するものです。その役割は、専門性を基盤とした高度な実践、看護職を含むケア提供者に対する教育や相談、研究、保健医療福祉チーム内の調整、倫理的課題の調整です。また、総合的な判断力と組織的な問題解決力をもって精神看護領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず教育や政策への課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能します。

担当教員

高橋 清美 教授
牧 マリコ 准教授



研究指導テーマ

高橋 清美 教授 k-takahashi@jrckicn.ac.jp

- ・精神疾患へのピアサポートに関する研究
- ・地域精神看護における倫理的課題
- ・精神科看護師への院内教育に関する研究

領域

老年看護学

領域の特徴

本領域は、老年看護専門看護師の育成をめざします。老人看護専門看護師は、対象のQOLの向上を目的として、個人、家族、および集団に対して、ケアとキューの統合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、疾病の予防および治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供するものです。その役割は、専門性を基盤とした高度な実践、看護職を含むケア提供者に対する教育や相談、研究、保健医療福祉チーム内の調整、倫理的課題の調整です。また、総合的な判断力と組織的な問題解決力をもって老年看護領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず教育や政策への課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能します。

担当教員

姫野 稔子 教授
原田 紀美枝 准教授
町島 希美絵 准教授



研究指導テーマ

姫野 稔子 教授 t-himeno@jrckicn.ac.jp

- ・End-of-Life Care、ターミナルケア、終末期ケア
- ・アドバンス・ケア・プランニングに関する研究
- ・家族の代理意思決定
- ・高齢者の尊厳に関する研究など高齢者を取り巻く倫理に関する研究

町島 希美絵 准教授 k-machishima@jrckicn.ac.jp

- ・高齢者の認知機能の維持に関する研究
- ・認知症高齢者の活動意欲の向上に関する研究
- ・摂食嚥下機能障害のアセスメントに関する研究

領域

在宅看護学

領域の特徴

本領域は、在宅看護専門看護師の育成をめざします。在宅看護専門看護師は、対象のQOLの向上を目的として、個人、家族、および集団に対して、ケアとキューの統合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、疾病の予防および治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供するものです。その役割は、専門性を基盤とした高度なケアの実践、看護職を含むケア提供者に対する教育や相談、研究、保健医療福祉チーム内の調整、倫理的課題の調整です。また、総合的な判断力と組織的な問題解決力をもって在宅看護領域における新しい課題に取り組み、現場のみならず教育や政策への課題にも反映できる開発的役割が担える人材を育成します。

担当教員

西村 和美 准教授
鎌田 ゆき 講師



研究指導テーマ

西村 和美 准教授 k-nishimura@jrckicn.ac.jp

- ・高齢者の排泄ケア（予防を含む）に関する研究
- ・在宅難病療養者および家族への在宅療養支援に関する研究
- ・外来看護における在宅療養支援に関する研究

領域

クリティカルケア看護学

領域の特徴

本領域は、急性・重症患者看護専門看護師の育成をめざします。急性・重症患者看護専門看護師は、対象のQOLの向上を目的として、個人、家族、および集団に対して、ケアとキューの統合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、疾病の予防および治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供するものです。その役割は、専門性を基盤とした高度な実践、看護職を含むケア提供者に対する教育や相談、研究、保健医療福祉チーム内の調整、倫理的課題の調整です。また、総合的な判断力と組織的な問題解決力をもってクリティカルケア看護領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず教育や政策への課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能します。

担当教員

池松 裕子 学長
立野 淳子 准教授



研究指導テーマ

立野 淳子 准教授 j-tatsuno@jrckicn.ac.jp

- ・クリティカルケア領域における家族看護に関する研究
- ・重症患者のPICSに関する研究
- ・周術期における患者・家族ケアに関する研究

※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

社会的要請に対応できる助産師としての専門的基礎的能力に加え、幅広い視野と科学的洞察力を持った、新たな助産のあり方を探究できる人材の育成を目指します。また、専門的知識の習得とともに母子保健分野における課題探究能力を備えた専門職を育成します。さらに国内外を問わず、女性および母子の健康問題に対して多角的な視点で考えることのできる資質を涵養します。



領域	領域の特徴	担当教員
助産学	人の一生における性と生殖をめぐる健康・権利を守る援助を探究します。また、妊娠・分娩・産褥・新生児期における根拠に基づく助産ケアを学びます。さらに、助産管理の視点を持ち、地域の社会資源の活用や多職種との連携を目指します。必要な科目を履修し、単位を修得することで、助産師国家試験受験資格が得られます。	永松 美雪 教授 石山 さゆり 准教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

永松 美雪 教授 m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp

- ・親子関係、育児支援、虐待予防に関する研究
- ・男女間暴力・性暴力予防に関する研究
- ・望まない妊娠・性感染症予防に関する研究

石山 さゆり 准教授 s-ishiyama@jrckicn.ac.jp

- ・胎児から乳幼児の情動発達と母子関係に関する研究
- ・産後支援に関する研究
- ・双子、在日外国人の育児
- ・父親に関する研究

研究指導体制

研究指導は、1名の研究指導教員と1名以上の研究指導補助教員の計2名以上で行います。研究指導教員と研究指導補助教員は、修士論文の作成に至るまで一貫した研究指導を行います。

本大学院での研究指導においては、総合研究指導体制を採用しています。これは、大学院生の研究指導において専門分野の主たる指導教員に加えて、領域を横断して研究指導を受けることができる体制をいいます。これにより、大学院生は、専門領域の研究をすすめながら、領域を超えた視点や論点から、自分の研究を検討し、さらなる進展を図ることが可能になります。

基礎・専門基礎教員／研究テーマ

中山 晃志 教授

- ・人口推計システムに関する研究／看護・保健医療データの多角的な視点からの分析

木村 涼平 准教授

- ・脳活動を活用した疾患の早期発見に関する研究／睡眠と疾患の関連に関する研究

Gakkula Mahender Kumar 准教授

- ・グローバルヘルス関連事項を中心としたグローバル課題の研究



研究論文発表会

修士論文発表会

令和7年2月28日(金)



修士論文を提出した11名の大学院生が、研究の成果を発表し、集まった教員・大学院生が熱心に耳を傾けていました。大学院生は、助産師国家試験受験資格取得や仕事との両立というそれぞれの使命を全うしながら、標準課程あるいは長期履修課程という時間的制約のなかで、特別研究や課題研究に取り組んできました。その成果は、社会的にも学術的にも貢献し得る価値あるものとなっていました。

質疑応答では、多くの教員から研究内容を問う質問だけでなく、今後の学会発表や投稿等の公表に向けたアドバイスもあり、とても有意義な発表会となりました。

修士論文研究相談会 【特別研究】

令和7年2月14日(金)



大学院修士課程に入学して1年が過ぎようとする時期に、修士論文研究相談会が実施されました。研究指導教員の指導を受けながら研究計画書の作成を行い、多くの領域の教員の前で発表を行いました。

発表終了後の質疑応答では、内容についての質問や今後の研究活動についての助言等があり、大学院生にとって貴重な経験となりました。

修士課程 授業科目一覧

区 分		授 業 科 目	単位数	時間数	履修方法 及び 修了要件①	履修方法及び修了要件②				履修年次及び単位数											
						教育・研究者コース		CNSコース		助産コース		1年次		2年次							
専 門 科 目	教育・研究者コース	国際保健・国際看護学 ○ 国際看護学・災害看護学 ○ ヘルスプロモーション	国際保健・国際看護学特論Ⅰ	2	30	●	○					①	②	③	④						
			国際保健・国際看護学特論Ⅱ	2	30							2	2								
			演習（国際保健・国際看護学）	4	120							4									
			特別研究（国際保健・国際看護学）	4	120									4							
		生涯発達看護学 ○ 成育看護学（小児・母性） ○ 成人看護学（慢性） ○ 老年看護学	生涯発達看護学特論Ⅰ	2	30	●	○			○		2			4						
		生涯発達看護学特論Ⅱ	2	30								2									
		演習（生涯発達看護学）	4	120								4									
		特別研究（生涯発達看護学）	4	120										4							
		広域看護学 ○ 精神看護学 ○ 在宅看護学 ○ クリティカルケア看護学	広域看護学特論Ⅰ	2	30	●	○					2									
			広域看護学特論Ⅱ	2	30								2								
			演習（広域看護学）	4	120								4								
			特別研究（広域看護学）	4	120										4						
	基盤看護学 ○ 看護管理学 ○ 看護教育学 ○ 看護倫理学	基盤看護学特論Ⅰ	2	30	●	○					2										
		基盤看護学特論Ⅱ	2	30								2									
		演習（基盤看護学）	4	120								4									
		特別研究（基盤看護学）	4	120										4							
	CNSコース	精神看護学	精神看護学特論Ⅰ	2	30	●		●				2									
			精神看護学特論Ⅱ	2	30							2									
			精神看護学特論Ⅲ-A	2	30							2									
			精神看護学特論Ⅲ-B	2	30								2								
精神看護学特論Ⅳ			2	30								2									
精神看護学特論Ⅴ			2	30								2									
精神看護学演習Ⅰ			2	60								2									
精神看護学実習Ⅰ			1	45	1																
精神看護学実習Ⅱ			2	90	2																
精神看護学実習Ⅲ			3	135	3																
精神看護学実習Ⅳ			4	180										4							
老年看護学			老年看護学特論Ⅰ	2	30							●		●				2			
			老年看護学特論Ⅱ	2	30													2			
			老年看護学特論Ⅲ	2	30														2		
			老年看護学特論Ⅳ	2	30														2		
			老年看護学病態・治療論	2	30													2			
		老年看護学演習Ⅰ	2	60	2																
		老年看護学演習Ⅱ	2	60				2													
		老年看護学実習Ⅰ（慢性期看護）	3	135		3															
		老年看護学実習Ⅱ（慢性期看護）	2	90		2															
		老年看護学実習Ⅲ（認知症看護）	2	90				2													
		老年看護学実習Ⅳ（認知症看護）	3	135				3													
		在宅看護学	在宅看護学特論Ⅰ	2	30	●		●										2			
在宅看護学特論Ⅱ			2	30	2																
在宅看護学特論Ⅲ			2	30	2																
在宅看護学特論Ⅳ			2	30								2									
在宅看護学特論Ⅴ			2	30								2									
在宅看護学演習Ⅰ			2	60								2									
在宅看護学演習Ⅱ			2	60								2									
在宅看護学実習Ⅰ			2	90								2									
在宅看護学実習Ⅱ			3	135										3							
在宅看護学実習Ⅲ			3	135										3							
在宅看護学実習Ⅳ			2	90										2							
クリティカルケア看護学			クリティカルケア看護学特論Ⅰ	2	30							●		●				2			
		クリティカルケア看護学特論Ⅱ	2	30	2																
		クリティカルケア看護学特論Ⅲ	2	30		2															
		クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2	60		2															
		クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2	60		2															
		クリティカルケア看護学演習Ⅲ	2	60		2															
		クリティカルケア看護学演習Ⅳ	2	60		2															
		クリティカルケア看護学実習Ⅰ	5	225				5													
クリティカルケア看護学実習Ⅱ		5	225				5														
助産コース		助産学	助産学総論	1	30	●		●				1									
			ウィメンズヘルスⅠ	1	15							●		1							
			ウィメンズヘルスⅡ	2	30							●			2						
			リプロダクティブ・ヘルス	2	30							●		2							
			女性のフィジカルアセスメント	1	15							●		1							
			妊娠期のアセスメントとケア	2	30							●		2							
	分娩期のアセスメントとケア		2	30	●								2								
	産褥期・新生児のアセスメントとケア		2	30	●								2								
	周産期学（正常編）		1	15	●								1								
	周産期学（異常編）		1	15	●								1								
	新生児学		2	30	●								2								
	助産と薬理		1	15	●								1								
	地域母子保健		2	30	●								2								
	助産経営管理学		2	30	●								2								
	フィールドワーク演習		2	30	●								2								
	助産基礎実習		8	360	●								8								
	助産所実習		2	90	●								1	1							
	新生児集中ケア基礎実習		1	45	●									1							

区 分	授 業 科 目	単位数	時間数	履修方法 及び 修了要件①	履修方法及び修了要件②						履修年次及び単位数			
					教育・研究者コース		CNSコース		助産コース		1年次		2年次	
					必修	選択	必修	選択	必修	選択	①	②	③	④
共 通 科 目	保健・看護総合特論	1	15	〔教育・研究者コース〕 必修8単位 選択○印科目と専攻領域 以外の教育・研究者コース の特論Ⅰ（2単位以上）を あわせて10単位以上	●				○		1			
	看護理論	2	30		●			○		○	2			
	看護倫理	1	15		●			○	●			1		
	グローバルヘルス	1	15		●					○	1			
	専門外国語講読Ⅰ	1	15		●					○	1			
	研究方法（研究方法総論）	2	30		●		●		●		2			
	研究方法A-I（量的研究方法の基礎）	1	15			○				○		1		
	研究方法B-I（質的研究方法の基礎）	1	15			○				○		1		
	研究方法A-II（量的研究方法）	1	15			○				○		1		
	研究方法B-II（質的研究方法）	1	15			○				○		1		
	看護教育論	2	30	〔CNSコース〕 必修12単位 選択○印科目の中から 6単位以上		○		○		○		2		
	看護管理論	2	30			○		○		○	2			
	看護政策論	1	15			○		○		○		1		
	専門外国語講読Ⅱ	2	30			○			○				2	
	フィジカルアセスメント特論	2	30			○	●			○	2			
	病態生理学特論	2	30			○	●			○	2			
	臨床薬理	2	30	〔助産コース〕 必修11単位 選択○印科目の中から 13単位以上		○	●			○		2		
	コンサルテーションⅠ	1	15			○		○		○		1		
	コンサルテーションⅡ	1	15					○				1		
	専門実習Ⅰ	2	90			○			●		2			
	専門実習Ⅱ	2	90			○			●				2	
	文献クリティーク演習	2	60				●		●	○	2			
	課題研究	2	60				●		●	○			2	
	計			〔教育・研究者コース〕30単位以上 〔CNSコース〕42単位以上 〔助産コース〕61単位以上										

修士論文タイトル一覧

	専 攻 領 域	研 究 課 題 名
令和6年度	教育・研究者コース(看護管理学)	特定機能病院の看護師長の認定看護管理者教育課程の受講と看護管理能力との関連
	教育・研究者コース(看護管理学)	外来の看護師長が看護師の在宅療養支援を促進するために発揮したリーダーシップの様相
	教育・研究者コース(看護教育学)	新人看護師のプロアクティブ行動を喚起するための教育担当者の働きかけ—新人後期に焦点をあてて—
	CNSコース(クリティカルケア看護学)	集中治療室に入室した重症患者の踵の褥瘡に対する予防的介入：システムティックレビューおよびメタ分析
	CNSコース(クリティカルケア看護学)	集中治療室に入室した患者の口渴に関するスコوپingleレビュー
	CNSコース(クリティカルケア看護学)	Fan therapyによるICU患者の呼吸困難に対する効果：クロスオーバー—無作為化比較試験
	助産コース(助産学)	育児休業取得中でメンタルヘルス不調を訴える父親に対する助産師の支援
	助産コース(助産学)	低出生体重児の出生前から初回面会後までの父親の思い
	助産コース(助産学)	家庭で性教育を行なう父親の幼児との関わりと思い
令和5年度	助産コース(助産学)	不妊治療後の妊娠婦とそのパートナーに対する看護職者のケアの実態～妊娠中から出産後まで～
	助産コース(助産学)	在留ベトナム人女性に対する外来助産師のケアの実態
	生涯発達看護学(老年看護学)	長期療養中の高齢者の終末期に向けた代理意思決定に対する子の意向とその背景
	基盤看護(看護教育)	2年目看護師が先輩看護師の関わりから重症患者に対する臨床判断の手がかりを掴んでいくプロセス
	基盤看護(看護管理)	病院においてJCI(国際病院評価機構)受審を医療の質改善に結びつけ定着させたプロセス
	基盤看護(看護管理)	看護現場の組織変革において主任看護師が発揮するフォローアップ～看護師長の視点から～
	CNSコース(在宅看護学)	高齢心不全患者の在宅療養移行における在宅看護専門看護師のACP支援の実態
	助産コース(助産学)	40歳以上の初産婦とその家族に対して市町村の助産師が行う妊娠前から産後までの多職種連携
	助産コース(助産学)	第1子で長期の育児休業を取得した男性の親性の発達
令和4年度	助産コース(助産学)	性暴力被害を訴えた児童に対する養護教諭の対応の経験のプロセスと医療者へ求める支援
	助産コース(助産学)	看護職者が行う小・中学生への性暴力予防教育の経験と思い
	広域看護(メンタルヘルスケア)	ピアサポートを受けたことによって疾患を抱える自己に対する認識の変化～地域で暮らす精神疾患がある人に焦点をあてて～
	広域看護(メンタルヘルスケア)	高い感情表出を呈する同居家族への精神科訪問看護師による支援の内容 ～統合失調症者の家族に焦点をあてて～
	広域看護(メンタルヘルスケア)	看護師が初めて任意入院したうつ病患者と信頼関係を構築するプロセス
	基盤看護(看護管理)	病院の産科関連部署以外で看護師として就労する助産師が認識する職業的アイデンティティ
	基盤看護(看護管理)	副看護師長が自身の看護管理能力の獲得につながったと認識する仕事上の経験
	基盤看護(看護教育)	3年課程看護師養成所に所属する看護教員の臨床看護師から 新人看護教員への役割移行のプロセス～実習指導の役割に焦点をあてて～
	基盤看護(看護教育)	中規模病院に勤務する中堅看護師が新人看護師の臨床実践能力向上のために行う内省支援の様相
	助産教育(助産教育)	産後ケア事業のショートステイ型において助産師が行う母子とその家族への支援
	助産教育(助産教育)	緊急避妊薬の処方が必要とする女性に対する助産師の支援についての実態
	助産教育(助産教育)	周産期のDV被害女性に対する助産師の対応についての実態
	助産教育(助産教育)	双子を育てる父親が妊娠から生後1歳までに直面した困難と求める支援
	助産教育(助産教育)	日本に在留する中国人父親の育児中に直面した困難とその対処法 ～妻の妊娠中から産後1年まで～

共同看護学専攻 博士課程

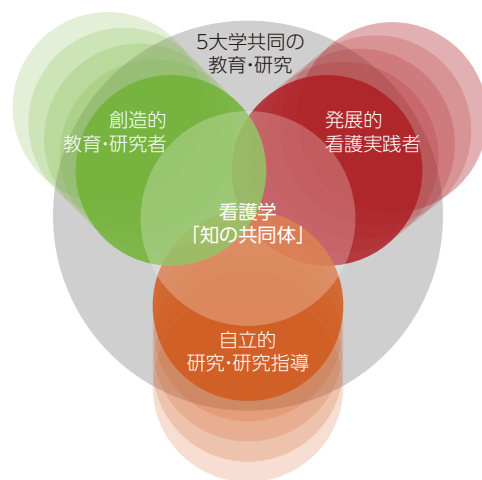
Graduate School of Nursing

あらゆる看護現象へアプローチできる 研究者・実践者の養成をめざす

5つの大学は看護学の「知の共同体」

高い専門性で社会貢献

- 理論や実践方法の創造ができる教育・研究者へ
- 自立した研究・研究指導ができる研究者へ
- 発展的に看護を実践できる実践者へ



共同看護学専攻(博士課程)の特色・教育理念等

特色

- 学位は、共同教育課程を構成する5大学の連名により、授与されます。
- 学生は、主指導教員が在籍する大学に学籍を置くことになります。
- 学生は、5大学の施設等を利用することができます。
- 学生は、学籍を置く大学以外の大学の副指導教員からも、研究指導が受けられます。
- 学生は、遠隔授業システムにより、各大学で開講する講義を、学籍を置く大学から受講することができます。

学位

博士(看護学)

教育理念

赤十字の理念である「人道(humanity)」の実現を目指し、いかなる場合でも一人ひとりの尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現することを共通の理念としています。また高度な実践知を基盤として、自立した研究活動と研究指導ができる研究者、質の高い看護学の教育ができる教育者、知的複眼思考・論理的思考に基づき発展的に看護を実践できる人材の育成を目指します。

教育目標

共同看護学専攻では、次のような能力を養うことを目標とします。

- 1) 研究者として、自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力を養う。
- 2) 知的な教養と柔軟性、先見性を兼ね備え、質の高い看護学の教育を行うための教育開発能力、教育能力、課題解決能力を養う。
- 3) 臨床看護実践や教育の場において、リーダーとして活動するための俯瞰力と指導・調整力を養う。
- 4) 国内外の保健・医療・福祉の分野で広く活躍できる能力を養う。

博士課程 研究指導 教員紹介

出願を希望する方は、出願前に研究指導を希望する教員と面談し、入学後の研究・学修活動について相談を行う必要があります。まず、**事前面談**の予約を行う必要がありますので、研究指導を希望する教員までご連絡ください。

池松 裕子学長

TEL 0940-35-7010

y-ikematsu@jrckicn.ac.jp



生命の危機状態にあるひととその家族に対し、QOLの向上を図るための研究指導を行います。

姫野 稔子教授

TEL 0940-35-7026

t-himeno@jrckicn.ac.jp



老年期にある対象者や家族への支援および倫理的問題、看護介入の効果の測定ならびに看護介入プログラムや教育プログラムの開発に関する研究指導を行います。

育成する人材

5大学が共同し教育を行うことで教育の内部質保証・向上を図りながら、次のような人材を養成します。

- 1) 質の高い看護学の教育および研究指導ができ、それぞれの地域で活躍する人材
- 2) 自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力および基礎となる豊かな学識を備え、看護学分野の研究をリードでき、それぞれの地域の看護研究・看護教育のリーダーとなる人材
- 3) 医療施設等の臨床において看護の質を管理し、継続教育を実践でき、それぞれの地域の看護実践・看護教育のリーダーとなる人材
- 4) 看護実践に対する理論の構築、看護方法論の開発・創造ができ、看護実践のリーダーとなる人材
- 5) 国内外の保健・医療・福祉の分野で創造的な活動ができ、それぞれの地域で保健・医療・福祉分野のリーダーとなる人材
- 6) 未知なる健康課題の発生に対して迅速・的確に対応し、その成果を社会に還元できる人材
- 7) 国内外における災害救護・災害看護を実践するための有用な理論構築ができ、国内外で人道的任務を果たせる人材

アドミッション・ポリシー

共同看護学専攻では、赤十字の理念である「人道(humanity)」のもとに、学際的な視野から独創的な学術研究により看護学の発展に寄与できる能力を備えた人材の育成を目指します。次のような資質と能力、意欲をもった人材を幅広く求めています。

- 1) 赤十字の「人道(humanity)」の理念に共感し、高い倫理性を備え、多職種と協働しながら、看護を発展させる意欲のある人
- 2) 修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力を有し、保健・医療・福祉の専門知識を持つ人
- 3) 独創的な研究に取り組むための基礎的な力を有している人
- 4) 研究を遂行するための基礎的な英語の読解力を有する人

カリキュラム・ポリシー

共同看護学専攻の設置の趣旨及び教育目標を達成するため、科目区分を設け必要な授業科目を配置するとともに、当該科目区分ごとに履修要件単位数を定め、体系的なコースワークによる教育課程を編成しています。

- 1) 看護学を導く理論を探究するとともに、高度な実践知を基盤とした理論を構築するための方法および研究方法を学修し、博士學位論文の作成に結びつけるために共通科目をおく。
- 2) 看護における知識や技術の検証、新たな理論や方法論の創設等、より高度な研究能力を身につけ、広範な健康問題や看護課題について実践的な研究を行うために専門科目をおく。
- 3) 自らの研究テーマに関わる事例や先行研究を分析し、課題解決のための理論と方法論、技法について実証的に研究する手法を探究するために演習をおく。
- 4) 博士學位論文作成に向け、専門領域の垣根を越え異なる専門性の観点から、実現可能な研究に向けての方向性を明確化するために合同研究ゼミナールをおく。
- 5) 保健・医療・福祉の場で科学的視点を持ち教育・研究能力が発揮できる高度専門職業人に必要な研究能力の修得を目指すために特別研究をおく。

ディプロマ・ポリシー

修了要件となる単位を修得するとともに、博士論文の審査及び最終試験に合格し、次の条件を満たすものに 博士(看護学)の学位を授与します。

- 1) 看護学の専門性を探究し、学際的な視野から独創的な学術研究を自立して推進する能力を有している。
- 2) 研究成果を発信し、社会に還元する能力を有している。
- 3) 看護教育・研究・実践において、指導的立場を担い、看護学の発展に寄与できる能力を有している。

高橋 清美教授

TEL 0940-35-7502

k-takahashi@jrckicn.ac.jp



永松 美雪教授

TEL 0940-35-7072

m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp



本田 多美枝教授

TEL 0940-35-7037

t-honda@jrckicn.ac.jp



精神障がい者の支援に関する研究、地域における精神疾患に関する課題に焦点をあてた研究指導を行います。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツの課題に関連する要因の分析、その支援と予防モデルの開発および評価に焦点を当てた研究指導を行います。

キャリア各期の特性に応じた人材開発の方法、リフレクションを活用した看護職の実践力開発の方法論、熟達化に関する看護モデル開発に焦点を当てた研究指導を行います。

大学院でのサポート体制

教育課程の特色 共同看護学専攻は、次の取組みを特色とした教育課程を編成し、教育・研究を行います。

1 課程制大学院の趣旨に沿った教育課程・研究指導

コースワークと研究指導を有機的に連携させた教育を行い、コースワークが研究指導の基礎となるよう科目の内容を設定しています。具体的には、コースワークにおいて多様な研究方法を学ぶ機会を提供し、学生は必要とする研究方法を選択し、学修できます。また、各自の研究課題に関連した内容をコースワークとして設定している授業科目の中で取り上げます。

2 オムニバス科目による効果的な教育の実施

博士課程で看護学を学ぶ上で必要とされる知識や研究方法等を修得できるよう、様々な領域の専門家を含めたオムニバス形式で科目を設定し、高い教育効果が得られるよう実施します。異なる大学に所属する教員が、オムニバス形式の科目を担当する場合は、遠隔授業システムで打ち合わせを行うことにより教育の質を保証します。また、異なる大学に所属する学生であっても、遠隔授業システムを活用することにより、直接、対面しながら行う授業と同等の授業をリアルタイムに受けられます。

3 多彩な教授陣による研究指導体制

研究指導科目は、「特別研究」として、単位数（必修8単位）を設定しています。演習を踏まえた主研究指導教員からの対面による個人研究指導だけでなく、遠隔授業システムの利用により、他の4大学からの副研究指導教員による個人指導や集団指導が受けられることも本教育課程の特色です。

長期履修制度

職業を有しているなどの事情で標準の修業年限(3年)では修了することが困難となる者を対象に、長期(4年)にわたり計画的に教育課程の履修を認める制度です。その場合は、授業料等の支払い方法が変更になります。詳細は大学院学生募集要項をご参照ください。

教育方法の特例

共同看護学専攻では、実務経験を有する有識者などの社会人を受け入れる場合の教育上の配慮として、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)による教育を実施しています。適用が認められた場合には、以下の①～③の履修指導及び研究指導の方法を実施することができます。適用を希望する者は、事前面談の際に、研究指導を希望する教員に申し出てください。

- ① 授業は、基本的に夜間及び土曜日に開講します。長期休業期間などに開講し、単位修得のための便宜を図ります。
- ② 研究指導及び論文作成指導も上記と同様に便宜を図ります。必要に応じ、多様なオンラインシステムを利用して指導します。
- ③ 授業科目、履修方法、履修指導、研究指導、修了要件等は、一般学生と同様です。
履修計画の指導にあたり、講義・演習・研究指導等については、必要な場合、集中的に開講します。

3年間の教育・研究スケジュール（長期履修制度あり）

前期	1 年次	2 年次	3 年次	長期履修生(4年目)
4月	● 入学式 ● ガイダンス ● 主研究指導教員決定 ● 合同ガイダンス	● ガイダンス ● 前期授業開始 ● 研究計画書提出①	● ガイダンス ● 前期授業開始	● ガイダンス ● 前期授業開始
5月	● 前期授業開始			● 博士論文・申請書提出
6月		● 研究計画書提出②		
7月				
8月				
9月	● 前期授業終了	● 前期授業終了 ● 研究計画書提出③	● 前期授業終了	● 前期授業終了
後期	1 年次	2 年次	3 年次	長期履修生(4年目)
10月	● 後期授業開始 ● 合同研究ゼミナール ● 副研究指導教員決定	● 後期授業開始	● 後期授業開始	● 後期授業開始
11月			● 博士論文・申請書提出	● 博士論文・申請書提出
12月				
1月	※ 研究計画書提出	● 研究計画書提出④		
2月	● 後期授業終了	● 後期授業終了	● 後期授業終了	● 後期授業終了
3月			● 博士論文発表会 ● 学位記授与式	● 博士論文発表会 ● 学位記授与式

※ 研究計画書は1年次の1月の提出も可能です。

教育課程等の概要

博士課程 授業科目一覧

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	開設大学	単位数		授業形態	
				必修	選択	講義	演習
共通科目	看護理論	1・2前	日本赤十字秋田看護大学		1	○	
	赤十字人道援助論	1・2後	日本赤十字秋田看護大学		1	○	
	科学的研究方法論Ⅰ(実験研究)	1・2前	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字九州国際看護大学		1	○	
	科学的研究方法論Ⅱ(臨床介入研究)	1・2後	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字広島看護大学		1	○	
	科学的研究方法論Ⅲ(尺度開発)	1・2前	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学		1	○	
	科学的研究方法論Ⅳ(質的研究)	1・2後	日本赤十字秋田看護大学		1	○	
	科学的研究方法論Ⅴ(文化人類学的研究)	1・2前	開講せず		1	○	
	科学的研究方法論Ⅵ(理論構築)	1・2後	日本赤十字秋田看護大学		1	○	
	臨床倫理論	1・2後	日本赤十字九州国際看護大学 日本赤十字広島看護大学		1	○	
	小計(9科目)	—	—	—	9	—	—
専門科目	看護人材開発特論	1・2前	日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字九州国際看護大学		2	○	
	療養生活看護学特論	1・2前	日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字九州国際看護大学		2	○	
	生涯発達看護学特論	1・2前	日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字九州国際看護大学		2	○	
	実践看護学特論	1・2前	日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学		2	○	
	広域連携看護学特論	1・2前	開講せず		2	○	
	災害救護特論	1・2前	日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学		2	○	
	健康科学特論	1・2前	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字豊田看護大学		2	○	
	小計(7科目)	—	—	—	14	—	—
	看護学演習	1通	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学		2		○
演習	小計(1科目)	—	—	2	—	—	—
合同研究ゼミナール	合同研究ゼミナール	1後	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学		1		○
	小計(1科目)	—	—	1	—	—	—
特別研究	特別研究	2～3通	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学		8		○
	小計(1科目)	—	—	8	—	—	—
合計(19科目)				—	—	—	—

注) 前:前期 後:後期 通:通年

標準課程修了までの履修の流れ

1年次

- 共通科目※2科目2単位以上(選択)
看護理論
赤十字人道援助論
科学的研究方法論Ⅰ(実験研究)
科学的研究方法論Ⅱ(臨床介入研究)
科学的研究方法論Ⅲ(尺度開発)
科学的研究方法論Ⅳ(質的研究)
科学的研究方法論Ⅴ(文化人類学的研究)
科学的研究方法論Ⅵ(理論構築)
臨床倫理論
- 専門科目※1科目2単位以上(選択)
看護人材開発特論
療養生活看護学特論
生涯発達看護学特論
実践看護学特論
広域連携看護学特論
災害救護特論
健康科学特論
- 演習※必修2単位
看護学演習
- 合同研究ゼミナール※必修1単位

2・3年次

- 特別研究※必修8単位
- 研究計画書審査
- 研究倫理審査
- 学位論文審査

博士学位論文の研究発表会

修了要件

標準修業年限(3年)以上在学し、次の所定単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ博士学位論文を提出し、博士学位論文審査と最終試験に合格しなければならない。

以下の①から⑤を満たし15単位以上

- ① 共通科目のいずれか2科目2単位以上
- ② 専門科目から1科目2単位以上
- ③ 「看護学演習」を2単位
- ④ 「合同研究ゼミナール」を1単位
- ⑤ 「特別研究」を8単位

大学院で学ぶこと ～修了生のコメント～

教育・研究者コース（看護管理学）

絹持 葉子 令和7年3月修了

大学院で得られたもの

私が大学院で学ぼうと思ったきっかけは、適性や能力を認められて看護師長となり、同じ看護管理目標に向かって管理をしているはずの看護師長が、なぜ同じ熱量で、同じ方向を向いて仕事が出来ないのかという疑問を持ったことでした。大学院で看護管理について学問的に学ぶことで、目先にある問題だけに目を向けるのではなく、全体を俯瞰して目指す姿を確認し、政策立案や教育内容・教育方法の改善に取り組み、様々な理論を元に看護管理能力を高めていく方策を学ぶことができました。また、大学院では、看護管理や教育について語り合える仲間と出会うことができました。現在は配置換えにより看護基礎教育に携わっていますが、今後は、看護管理者として大学院での学びを更に深化させて、看護管理者育成に関わっていきたいと思います。



教育・研究者コース（看護教育学）

竹下 恵美 令和7年3月修了

自己に向き合い、成長を感じられた3年間

私は、院内の看護師教育を担う立場で「教育って難しい…」と感じ、その苦生意識を克服するために大学院に進学しました。臨床での経験と看護学を行き来しながら学べる貴重な機会を得て、学びの楽しさを感じました。しかし、研究の問いを立て、それを明確にしていく過程は予想以上に難しく、常に頭を抱えていたように思います。深い森を彷徨っているような感覚でしたが、立ち止まって考え直す度に理解が深まり、“腑に落ちる”瞬間を重ねることで一歩ずつ前進している実感を持ってました。苦しみを経てようやく問いの答えに辿り着いた時、言葉では表せない達成感を感じました。そして、苦手に感じていた看護教育を、この3年間で少しずつ自分のものにできたことが一番の喜びです。ここで得た学びやご縁を大切に、臨床での看護教育に貢献していきたいと思っています。



CNS コース（クリティカルケア看護学）

堀之内 恵 令和7年3月修了

出会いに感謝した2年間

私は集中治療室の看護師として働く中で、より専門性を極めたいと考え、大学院進学を決意しました。大学院での学びは、日頃の看護実践を振り返る貴重な機会を与えてくれました。看護師としての自信を深め、さらに高度な看護実践を目指すための基盤を得ることができました。また、単に知識を得るだけでなく、自分の考えを他者に伝える手法を学ぶ機会となりました。大学院での生活は仕事との両立が求められるものでしたが、それを可能にしてくれたのは、熱心なご指導をくださった先生方や、日々支えてくださった職員の方々です。そして何より、一緒に学び、励まし合った仲間たちの存在が、大きな支えとなりました。先生方や仲間たちとの出会いは、私の人生においてかけがえのない財産です。



CNS コース（クリティカルケア看護学）

向山 恵 令和7年3月修了

2年間の大学院生活を終えて

大学院は、本当にあっという間の2年間でした。同分野で長く勤務してきた職業人生の中で、今後の方向性など悩み・疑問を感じるが増え、それが大学院進学への契機となりました。この2年は、これまでの課題や疑問に対する「こたえ」を見つけるための、新たな広い視野や方法論についての学びを得ることができ、私にとっては大きな転機となりました。仕事との両立に不安を感じていましたが、多くのサポートの元、無事に卒業を迎えることができ、この2年間は振り返ってみると有意義で充実した日々でした。このような機会や経験を与え、支援して下さった先生方や職場の同僚、友人、皆に感謝し、この2年の経験を次に活かしていきたいと考えています。



助産コース（助産学）

岸川 捺佳 令和7年3月修了

長年の夢であった助産師を目指して

私は、小学2年生の時に弟が生まれ、その出産に立ち会ったことがきっかけで助産師を目指すようになりました。大学院では、授業や実習を通して、改めて助産師とはどういう職業だろうと考え直し、助産師という仕事の幅の広さ、難しさ、やりがいを感じることができました。研究では、分析方法を変更したり、結果や考察の書き方に悩んだりと想像していた以上に大変なことが続きました。しかし、仲間や先生方の応援とご指導に支えられ、最後まで研究を進めることができました。決して楽しいだけの2年間だけではありませんでしたが、大学院の仲間や先生方、家族などたくさんの方の支えがあったからこそ乗り越えることができたと思います。そのことを忘れず、自分の目指す助産師になれるように精進していきたいと思っています。



助産コース（助産学）

山本 萌音 令和7年3月修了

たくさんの学びを得た2年間

私は助産師になることが夢で大学・大学院と学んできました。大学院では、臨床経験がある方も講義があり、様々な考えを知り、学ぶことの楽しさを感じました。学生が講義をすることが多くあったので、事前学習、事後学習をしっかりと行い、学びを定着させることができました。実習では、母子に寄り添いながら学生が主体となって分娩を行うときには、自分の未熟さを実感し悩みながら実習を行っていましたが、ずっとそばでケアをしていたことから母親との絆を実感した実習でもありました。研究では、なかなか思うように進まず、悩んだ期間がありましたが、先生方からのご指導、一緒に研究を進めていった同級生のアドバイスや励まし合いによって乗り越えることができました。とても貴重な2年間で過ごすことができました。日々感謝を忘れず、助産師として精進していきたいと思っています。ありがとうございました。



大学院で学ぶこと ～在学生のコメント～

教育・研究者コース（看護教育学）

野田 美帆

臨床とは一味違った
楽しさを実感

「私がしていることは、看護といえるのか？」ふと、このように考えたことが、大学院進学へのきっかけでした。

学業と仕事を両立するため、期待と不安を抱きながら入学しましたが、心の底から楽しいと思える1年でした。大学院では、与えられた課題を調べて、考えて、さらに調べて…という繰り返し。時間も気力も必要なため、何度も心が折れそうになりました。しかし、課題への取り組みや、他分野の院生や教員と意見交換をする機会があることは、「看護とは？」という疑問にも向き合うことができる貴重な時間になりました。どの講義も時間があっという間で、講義の後にも、院生同士で講義に関連した話を話し合うほど。大学院で学ぶことは、臨床では味わえないような、また違った楽しさがあります。残りの貴重な大学院生活では、探究したことを臨床に還元できるよう、研究に励みたいと思います。

CNS コース（クリティカルケア看護学）

小柳 真由美 令和7年3月修了

知見を広げられた2年間

変化しなければならないのではないかと思いながら、その方法がわからず、なんとなく虚しさを感じていた時に、職場の上司からご紹介頂き、大学院進学を決意しました。職場の上司やスタッフ、学校の先生方、同じゼミの同期のおかげで、2年間で修了することができました。その2年間は本当に必死で、自分の最も不得手とすることを見つめなおした2年間であったと思います。実習や研究中は、自分を見失うようなこともありましたが、同期の存在やご指導頂いた先生の支援で終えることができ、感謝しかありません。新たな場所で人とのつながりや多くの学びを得られたことは、これからの人生で大きな財産となっていくと思います。今後も知見を深めながら、アウトプットの方法を考え、周りの人や環境のためになれるよう行動できたらと思います。



助産コース（助産学）

奥村 英恵 令和7年3月修了

かけがえない2年間

「助産師になる」という夢を実現するため、大学院進学を選択しました。大学院では、学生が主体となる授業を通じて主体性を培い、助産コースにとどまらず、臨床経験のある方々と意見を交わしながら自身の考えを深めることができました。実習では、安心・安全で満足できるお産の実現のため一例一例に向き合い、母子とその家族のためにできることを常に考えました。研究活動では、日々の授業や実習で生じた問いに向き合う中で、研究の難しさや自身の未熟さを痛感しましたが、最後まで諦めず研究を行うことで成長できました。大学院での2年間はかけがえない時間であり、大学院進学を支えてくれた家族、ご指導くださった先生方、快く実習を受け入れてくださった実習施設の皆様、共に学び合い、多くの課題を乗り越えてきた仲間への感謝の気持ちを忘れず、今後も精進してまいります。



入試相談会

オープンキャンパスでは入試相談会を実施します。
本学大学院に関する質問・ご相談に、個別で応じます。

OPEN CAMPUS

令和7年度
実施予定日

第1回 7/26 [SAT.] 第2回 8/2 [SAT.]

状況により日程等が変更となる場合があります。
詳細はHPをご確認ください。



入試のお問い合わせ

0940-35-7008
(入試広報課TEL)

入試等に関するご相談は、
随時受け付けています。

科目等履修生



本学の学生以外の方（本学卒業生を含む）が、本学（大学院）が開講している授業科目（一部の科目を除く）を当該年度に限り履修する制度です。履修した授業科目の試験に合格すると、15単位を上限に、単位が与えられます。科目等履修生になるためには所定の選考を経て、入学が許可されます。

詳細はHPIにてご確認ください。

お試し受講



本学の学生以外の方（本学卒業生を含む）が、本学（大学院）が開講している授業科目（一部の科目を除く）を体験受講する制度です。希望する専攻領域の講義をお試し受講してみませんか？

詳細は入試広報課までお問い合わせください。

助産コース（助産学）

廣瀬 美海

大学院で学ぶことの
意義

私は、本学学部卒業後に助産を学ぶため大学院へ進学しました。専門学校と迷いましたが、卒業研究を通して研究の面白さに気づき、もっと探究したいと思ったことがきっかけです。入学後は、臨床経験がないことに不安を感じる場面もありましたが、経験豊富な先輩看護師と「同期」としてフラットに意見を交わせる大学院の環境に、大きな学びと刺激を感じています。現場視点の着眼点には毎回ハッとさせられますし、新人である私の視点にも耳を傾けてくださる関係性に支えられています。多様な価値観にふれながら語り合う中で、知識だけでなく人としての視野も広がっているのを実感しています。大学院は看護職としての成長はもちろん「価値観豊かな人間」としての成長を促してくれる場だと強く感じています。一緒に学び、成長できる仲間として、この大学院に足を踏み入れてみませんか？



施設紹介

図書館

専門知識の修得や最新情報の入手をサポートする図書館。大学正面のゲート棟に位置し、約5万5千冊を所蔵する明るく機能的なスペースです。

医療・看護系の図書は約6割を占め、専門の知識を深く探求することができます。赤十字に関連した図書および報告書を備えた赤十字コーナーや、災害看護・人道科学関連の図書を備えた特別コレクションコーナーのほか、看護の周辺分野である社会科学や心理学等の図書も充実しています。

新着図書コーナーでは、新しく受け入れた図書や学内行事に関連した図書を展示しています。

館内には20台のパソコンを備えており、すべてインターネットに接続しています。視聴覚機器も備え、機能面での充実を図っています。





院生室



講義室A

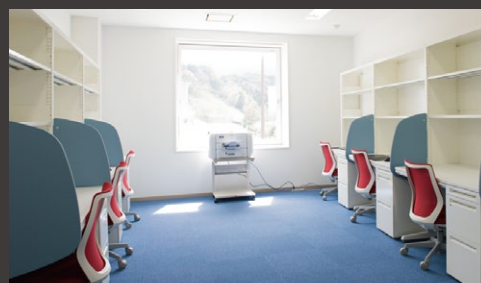


コミュニケーションスペース



大学院専用フロア

大学院講義室・研究室は、使いやすい専用フロアを設けました。
明るく広い研究室は、研究活動に専念できるようにデスク・パソコンを完備、十分なスペースが確保されています。



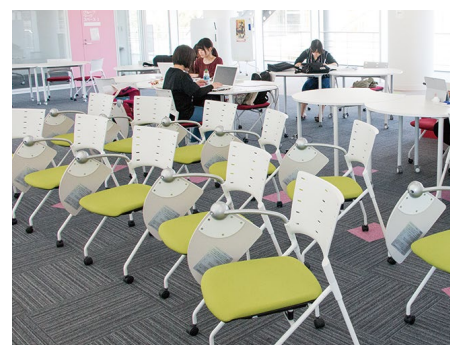
院生室



授業風景



実習室



ラーニング・コモنز



大学院専用フロア(ゲート棟2階)



レストランスティ

入試情報

看護学専攻(修士課程)

入学者募集詳細

募集定員 **10** 名(助産学内部推薦含む)

取得学位 **修士**(看護学)

修業年数 **2** 年(長期履修課程の場合は3年)

募集専攻領域

コース	専攻領域(分野)
教育・研究者コース	国際保健・国際看護学(国際看護学・災害看護学、ヘルスプロモーション)
	生涯発達看護学(成育看護学(小児・母性)、成人看護学(慢性)、老年看護学)
	広域看護学(精神看護学、在宅看護学、クリティカルケア看護学)
	基盤看護学(看護管理学、看護教育学、看護倫理学)
CNSコース	精神看護学、老年看護学、在宅看護学、クリティカルケア看護学
助産コース	助産学

入学試験概要

詳細は大学院 学生募集要項をご参照ください。

試験区分	I 期	II 期
出願期間	令和7年7月23日(水)～8月1日(金) ※最終日消印有効	令和7年12月8日(月)～12月17日(水) ※最終日消印有効
試験日	令和7年9月6日(土)	令和8年1月24日(土)
試験会場	日本赤十字九州国際看護大学(福岡県宗像市アスティ1丁目1番地)	
選抜方法	学力検査・面接、および書類審査等を総合して合格者を決定します。	
出願資格	学生募集要項もしくは本学のHPにて確認してください。	
合格発表	令和7年9月12日(金)	令和8年1月30日(金)
入学金振込締切	令和7年9月24日(水)	令和8年2月10日(火)
入学手続締切日	令和8年3月6日(金)	
入学検定料	30,000円	

授業料

種類	金額					摘要
	標準課程		長期履修課程			
	1年目	2年目	1年目	2年目	3年目	
入学金	300,000円		300,000円			入学申込手続時※
授業料	800,000円	800,000円	800,000円	400,000円	400,000円	年額 前期4月中 後期10月中
維持運営費	200,000円	200,000円	200,000円	100,000円	100,000円	年額 前期4月中 後期10月中
実験実習費(CNS・助産)	200,000円	200,000円	200,000円	100,000円	100,000円	年額 前期4月中 後期10月中

※入学金免除制度の詳細は、大学院 学生募集要項をご参照ください。

奨学金(修士課程・博士課程)

奨学金は、人物・学業ともに優秀な学生が、経済的理由により就学が困難と認められる場合に、学資として貸与または給付される制度です。

本学で現在取り扱っている奨学金は次のとおりです。

- ① 日本赤十字九州国際看護大学上田奨学金

1名上限100万円

※日本赤十字九州国際看護大学上田奨学金は3名以内。希望者複数の場合、貸与額調整。
- ② 一般財団法人 日本赤十字社看護師同方会奨学資金

100万円以内

共同看護学専攻(博士課程)

入学者募集詳細

募集定員 **2**名

取得学位 **博士**(看護学)

修業年数 **3**年(長期履修課程の場合は4年)



入学試験概要

詳細は大学院学生募集要項をご参照ください。

試験区分	I 期	II 期
出願期間	令和7年7月23日(水)～8月1日(金) ※最終日消印有効	令和7年12月8日(月)～12月17日(水) ※最終日消印有効
試験日	令和7年9月6日(土)	令和8年1月24日(土)
試験会場	日本赤十字九州国際看護大学(福岡県宗像市アスティ1丁目1番地)	
選抜方法	学力検査・面接、および書類審査等を総合して合格者を決定します。	
出願資格	学生募集要項もしくは本学のHPにて確認してください。	
合格発表	令和7年9月12日(金)	令和8年1月30日(金)
入学金振込締切	令和7年9月24日(水)	令和8年2月10日(火)
入学手続締切日	令和8年3月6日(金)	
入学検定料	30,000円	

授業料

種類	金額							摘要
	標準課程			長期履修課程				
	1年目	2年目	3年目	1年目	2年目	3年目	4年目	
入学金	400,000円			400,000円				入学申込手続時※
授業料	800,000円	800,000円	800,000円	600,000円	600,000円	600,000円	600,000円	年額 前期4月中 後期10月中
維持運営費	300,000円	300,000円	300,000円	180,000円	240,000円	240,000円	240,000円	年額 前期4月中 後期10月中

※日本赤十字学園の赤十字看護大学卒業生・修了生は入学金が免除されます。

③ 独立行政法人 日本学生支援機構奨学金

第一種・第二種

⑤ 小倉一春大学院教育(国際看護)奨学金

60万円[※]

※国際保健・国際看護学専攻者のみ。

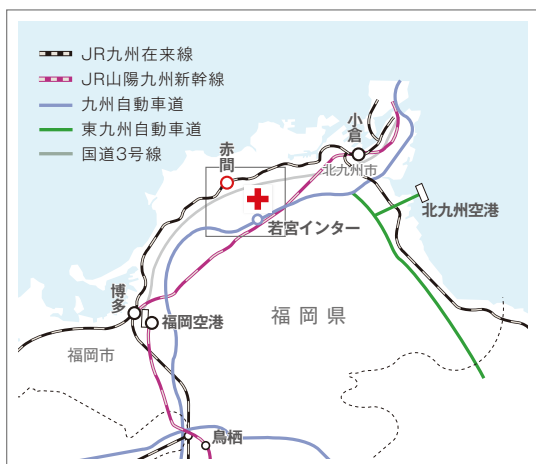
④ 国際看護師協会東京大会記念奨学金

年間180万円以内

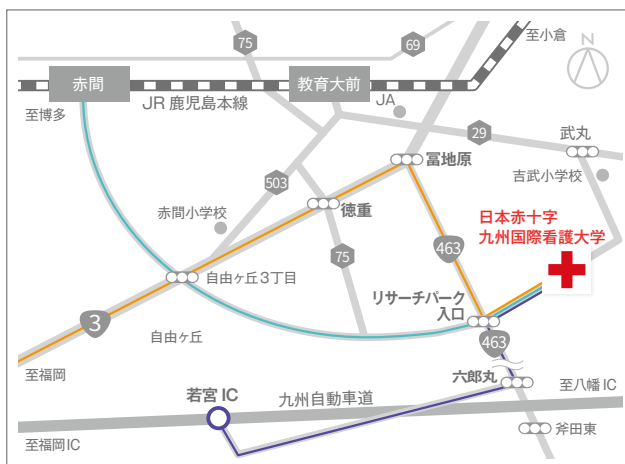
応募には、いろいろな応募資格や条件があります。
詳細は学務課に確認してください。

ACCESS

キャンパスは、生命を尊び慈しむことの大切さを学ぶのにも、ふさわしい環境にあります。



若宮インター(九州自動車道)より車で約 20 分 福岡空港より車で約 50 分



福岡空港からの車道 若宮インターからの車道 JR赤間駅からのバス路線

西鉄バス 赤間駅や天神から直行バスもあり、快適に通学できます。

JR 赤間駅南口から



直行バス
約 15 min

天神日銀前から



直行バス
約 70 min

天神からの直行バス

「日赤看護大学行き」西鉄バスは、学内ゲート棟前に着きます。授業の開始・終了に合わせて、天神から1日9便運行されています。(赤間駅南口からは1日14便運行されています)

西鉄バス「天神日銀前」からの主な経由地：九州産業大学南口・庄(古賀市)・千鳥パークタウン・イオンモール福津前・王丸など

JR

JR 博多・小倉駅から



JR & バス
約 50 min

JR博多・小倉駅から本学までのアクセス (JR&西鉄バスで約50分)

博多駅 約35分
小倉駅 約35分



バス 約15分



日本赤十字
九州国際看護大学

JR赤間駅までの所要時間の目安(快速) 福岡市内・北九州市内から通学する学生もたくさんいます。

吉塚	千早	香椎	福工大前	古賀	福岡	赤間	折尾	黒崎
約 31 min	約 27 min	約 25 min	約 20 min	約 16 min	約 10 min	→ — ←	約 13 min	約 18 min

←博多駅方面

〈 JR鹿児島本線 〉

小倉駅方面→

動画でキャンパスライフを体験

日本赤十字九州国際看護大学
YouTube
公式チャンネル



入試情報や学生の様子をお届け



Instagram
@jrckycn_college



日本赤十字九州国際看護大学 大学院看護学研究科

〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1丁目1番地 <https://www.jrckicn.ac.jp>

TEL : 0940-35-7001(大学代表) 0940-35-7008(入試広報課直通)



本学は、公益財団法人
大学基準協会より、大
学基準に適合してい
ると認定されています。